

令和7年産 元気つくし (5月23~29日 播種) 栽培 暦 (6月20~25日 移植)

北九州普及指導センター
J A 北 九

月別	5			6			7			8			9			10								
旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬						
水管理																								
生育ステージ及び薬剤使用時期																								
管理のポイント	<p>丈夫な稲作に 良食味対策に けい酸加里 40 kg</p> <p>基肥 ベスト444 35 kg</p> <p>移植 深植防止 除草剤施用 補植苗の除去</p> <p>良食味対策に けい酸加里 20 kg</p> <p>中干し 溝切り</p> <p>穂肥 きたきゅう 水稲用追肥 幼穂 30 mm 3~35 kg</p> <p>最も水が必要な時期</p> <p>アヅミンの投入 40 kg 又は 堆肥投入 2 t 土壌改良材の散布 ○土づくり</p> <p>○収穫後早めの耕起 ○落水はなるべく遅く (ヒメトビウンカ対策)</p>																							
病害虫	<p>ばか苗病 いもち病 ごま葉枯れ病 イネシシガレセンチュウ</p> <p>白カビ 苗立枯病</p> <p>葉いもち ヒメトビウンカ ヨコバイ類</p> <p>(ジャンボタニシ) スクミリンゴカイ</p> <p>葉いもち</p> <p>ウンカ類 コブノメイガ</p> <p>穂首いもち ウンカ類</p> <p>イネカメムシ 紋枯病</p> <p>カメムシ類 ウンカ類</p> <p>《栽培注意点》 ☆ いもち病の常発地や野菜後等での栽培は基肥を減肥し、追肥で調整する。 ☆ いもち病の常発地や野菜後等での栽培は基肥を減肥し、追肥で調整する。 ☆ 倒れやすい傾向にあるので、過剰施肥にならないよう注意する。 ☆ 後半肥料切れに注意。</p>																							
重点防除農薬	<p>育苗管理参照</p> <p>箱剤 防人箱粒剤 フルスロツトル箱粒剤</p> <p>初中期一発除草剤 アラビド G0フロアブル サラブレッド G0フロアブル ワイニングラン ジャンボ サラブレッド G0 ジャンボ</p> <p>※移植後落水・田面の均一化 ※病斑が確認された場合は防除 ※発生が無い場合も圃場確認 ※野菜後や高温多雨時は注意</p> <p>補正① いもち剤 ノンブラス粉剤 DL ノンブラス粉剤 DL</p> <p>補正② カメムシ・ウンカ剤 トレボン EW エクシード粉剤 DL</p> <p>必須① 粉 液 粒 ブラシントレバリダ粉剤 DL ダブルカットバリダフロアブル エクシードフロアブル ゴウケツモンスター粒剤</p> <p>必須② カメムシ・ウンカ剤 アルバリン粉剤 DL アルバリン顆粒水溶剤 スタークル豆つぶ</p> <p>航 液 スタークル液剤 10</p> <p>※出穂後の畦畔除草はしない ※発生パターンにより補正防除 ※航空防除(散布時期は必須①・②と同じ時期)</p> <p>《防除注意点》 ☆ 稲の開花期防除(カメムシ)は、ミツバチへの影響が考えられます。近くで養蜂が行われている場合は、稲の開花期には農薬の散布を避けましょう。 ☆ 散布時期 ・必須①は、出穂前散布 ・必須②は、穂揃い期から10日後を目安に散布 ・補正①・②については発生時や多発が予想される際に散布。 ※農薬散布時のドリフト注意!!</p>																							
※減農薬成分数	③	④		④	④	④	③	④		②	②	①	①	①		③	①	①	③	①	①	①	①	